

法人（事業所）理念	お子様ひとりひとりと向き合いながらその子たちらしく日々の生活を楽しむ施設を作ることです。 やらなければならない療育ではなく、日常の中でお子様一人一人に必要な支援を見つけ、日々を生きやすく導き、存分に楽しめるよう手助けしていきます。		営業時間 9時00分から18時
支援方針	・基本的な生活習慣を身に付け社会性を育む。 ・子ども自身の意識と思いやりの心を養い、発達・成長に合わせた支援をする。		送迎実施の有無 あり なし
健康・生活	ねらい (a) 健康状態の維持・改善 (b) 生活のリズムや生活習慣の形成 (c) 基本的な生活スキルの獲得	支援内容 (a) 健康状態の把握 健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行なう。その際、意思表示が困難であるお子さまの障害の特性及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインから身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。 (b) 健康的増進 睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食育の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるよう、口腔機能・感覚等に応じた咀嚼・嚥下、姿勢保持、自衛具等に関する支援を行う。さらに、病気の予防や安全への配慮を行う。 (c) リハビリテーションの実施 日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれのお子さまに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。 (d) 基本的な生活スキルの獲得 身の回りに関する、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるように支援する。 (e) 構造化等により生活環境を整える 生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。	具体的な活動や支援内容 来所時に体温測定を行い、健康状態を確認します。 はじめの会では、日付・曜日・天気の確認、お友だちの名前呼び、1日のスケジュールをホワイトボードに提示。 洗濯しを立てるように袖や手裏の手を使った視覚的提示によって不安を取り除けるよう支援します。 また日常生活に必要なスキル（食事、排泄、着替など）の習得を支援し、基本的な生活リズムを身に付け、安全な生活を子ども自身で送れるよう練習を重ね整えるよう配慮します。 生活スキル向上を目指し毎朝同じ方式でおやつ提供、みんなで食べる楽しみを経験できるようにしております。 お昼やお弁当、晩飯やプリンなどをパワーや所定人数に入るたびにパワーアップの瞬間に音による声掛けを行う。 ランドセルの中を確認し、プリント袋が整理整頓されている場合は一緒に連絡袋に片付けることを習慣化を行う。 小さなサインから身の異変に気付けるよう支援します。
運動・感覚	(a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助手段の活用 (c) 保育者の感覚的な活用	(a) 姿勢と運動・動作の基本的技術の向上 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動、動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 (b) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 姿勢の保持や各種の運動、動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。 (c) 身体移動能力の向上 自力での身体移動や歩行、歩行者車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。 (d) 保育者の感覚的な活用 保育者の視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるように、遊び等を通じて支援する。 (e) 感覚の補強及び代行手段の活用 保育者の感覚器官を用いた状況を把握しやすいような眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるように支援する。 (f) 感覚の特性（感覚過敏や鈍感）への対応 感覚や認知の特性（感覚過敏や鈍感）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。	体操などを通して、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動能力の向上を目指す。 体幹トレーニング、サーキットなどの異なる運動や動作を組み合わせた活動を通じて五感を刺激し、筋力・持久力・柔軟性などの運動能力を高めます。 注意して取り組んだり、集中して取り組めるような環境を整え、楽しく取り組めるよう支援を行います。 色や形の異なるブロックや絵本などの教材を用いて、視覚的に理解する力の向上を促します。 楽器や音を使った活動、リズムに合わせて体を動かしたり、音を聞き分けたりする活動を通して、楽しい活動の中で聴くことや聴いて理解する力を促進します。 トランポリン、バランスボールなどを使ってバランス感覚や体幹を鍛え姿勢保持にも繋がります。 集団療育で働く作業を通して微細運動や季節の認識、手先の感覚や感覚を刺激し、腕力や手の感覚を鍛えます。また感覚過敏・鈍感のある子にも合わせ、過こしやすい環境調整を行いながら支援します。 様々な身体感覚や感覚を刺激し、運動機能やバランス感覚、力加減、距離感などの発達をサポートします。
本人支援	(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 言語の受容及び発出 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得	(a) 感覚や認知の活用 視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。 (b) 知覚から行動の認知過程の発達 環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成 物の機能や属性、形、色、音が変化する場合、様子、空間、時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように支援する。 (d) 数量、大小、色の区別 数量、形の大さで、重さ、色の違い等の習得のための支援を行う。 (e) 認知の偏りへの対応 認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるように支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。 (f) 行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。	お買いものリストを通じてお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。 絵本や歌、パズル、時間を計るゲームを使い、楽しみながら空間・時間、数の概念を学び、深めます。 お子さまが自ら課題を解決する機会を与え、教材や教具を用いて視覚的に理解しやすいうえ支援を行います。 小まめ粘土やスライム作りで感覚・触覚を刺激し想像力や感性、手先の器用さを育みます。 感情コントロールができるように活動の中で順番待ちや練習を行い、言葉で伝えるスキルや手立てを練習し自制心を育てます。 先の見通しを立てて順番を待つためのスキルの定義を図り、感情のコントロール方法を学んでいく。 野菜を育て、収穫、品種、大きさで、色、形や重さ、成長の違いなど一緒に考えます。 工作活動を通じて季節や行事を知れる機会を設けます。 工作や調理活動より、完成をイメージしながら手順通りに作業を進めてもらいます。
言語コミュニケーション	(a) 言語の形成と活用 (b) 言語の受容及び発出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用	(a) 言語の形成と活用 具体的な事物や体験、言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。 (b) 受容言語と表出言語の支援 話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行う。 (c) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 相手と関わりあうことで相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 (d) 指差し、身振り、アイコン等々の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるように支援する。 (e) 読み書き能力の向上のための支援 発達障害のお子さまと、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。 (f) コミュニケーション機器の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるように支援する。	要求・模倣・注目・追視など、円滑なコミュニケーションスキルの獲得を促します。 事前・話す・読解・目録・追視などとお言葉を設定しています。 人数で遊ぶゲームを通して楽しくことばを学ぶ環境を提供し、日常生活や活動で新しいことばや概念を学ぶ機会をつくります。 またお子さまが自分自身のコミュニケーション、文や数字、ジェスチャーなど、職員がモデルを示します。 グループでの協力なコミュニケーションを促す活動を通して、他者との関わりや協力の重要性、信頼関係の築き方を学び、社会的スキルを育てます。 個別療育を通して他者と関わる楽しさを知り、適切な言葉遣いや相手と伝わる話し方を指導していく。 お当番をすることで自分の役割を理解し責任感や社会性を育みます。また人前で話す、感想を発表する等、自分の思いや考えを伝えられるよう支援します。 個別プリント学習によりひらがな、カタカナ、漢字の読み書き能力や語彙力を身に付けられるよう支援します。
人間関係・社会性	(a) 他者との関わり（人間関係）の形成 (b) 自己の理解と行動の調整 (c) 仲間づくりと集団への参加	(a) アタッチメント（愛着行動）の形成 人と関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行なう。 (b) 適切な行動の支援 遊びを通して人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。 (c) 感覚運動遊びから象徴遊びへの支援 感覚機能を使ったり遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 (d) 人遊びから協調遊びへの変化 個人・子どもだけでない場面である「人遊び」の状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う遊玩的遊び、役割分担したルールを遊ぶ遊びを通じた遊びを通して、徐々に社会性を発達させる。 (e) 自己の理解とコントロールのための支援 大人を介して自分であることを、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。 (f) 集団への参加の支援 集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるように支援する。	事前に視覚的な支援を使って丁寧に説明し、お子さまが安心して集団活動に参加できるように支援します。 少人数での体験やゲームなどの活動を通して、社会性の向上を促します。 またお子さまが自分自身のコミュニケーション、文や数字、ジェスチャーなど、職員がモデルを示します。 グループでの協力なコミュニケーションを促す活動を通して、他者との関わりや協力の重要性、信頼関係の築き方を学び、社会的スキルを育てます。 個別療育を通して他者と関わる楽しさを知り、適切な言葉遣いや相手と伝わる話し方を指導していく。 お当番をすることで自分の役割を理解し責任感や社会性を育みます。また人前で話す、感想を発表する等、自分の思いや考えを伝えられるよう支援します。 個別プリント学習によりひらがな、カタカナ、漢字の読み書き能力や語彙力を身に付けられるよう支援します。
家族支援	・個別療育や集団療育に行っていた活動の内容を送迎時（お迎え時）、写真付きでサービス提供記録にてお伝えします。 ・ご家族からのご相談や悩みに対しての助言。 ・6カ月1回程度、モニタリングとは別に子育てでのお悩みや困りごとに対し保護者様と面談の機会を設けていきます。	移行支援 ・必要に応じて学校に訪問し、児童との関わり方について情報共有、支援方針を計画します。 ・事業所での様子をご事業所や相談支援専門員に対し、訪問、電話等で伝え、日々の様子の情報交換を行います。 ・学校への送迎時、先生と学校での様子や事業所での過ごし方の情報共有を行います。	
地域支援・地域連携	・関係機関と情報共有を行います。 ・放デイネット定期的に開催される連絡会へ参加し、他事業所と情報共有します。 ・各関係機関の情報を基に、具体的な場面で関わり方や、困りごとに関しての提案やポイントを共有します。	職員の質の向上 定期的な職員会議・研修を行い職員間での情報共有・意見交換を実施	
主な行事等	・季節の行事 ・近隣施設や公園への外出活動		